

2006年10月12日

No.61

# 又市征治 国政だより

又市征治事務所

発行責任者 谷岸 孝士

富山市下新町 4-27

TEL 076-441-0800

HP: [www.s-mataichi.com](http://www.s-mataichi.com)



又市幹事長は、衆・参本会議・予算委の論戦を注視しながら、党を率いて大衆運動の提起と統一地方選・参院選の候補者擁立、また寸暇を惜しんで自ら予定候補としての全国遊説に奔走している。15日(日)は又市「自治労」選対の立ち上げだ。

11日以降の2週間は、糸数慶子・沖縄知事選候補予定者(現参院議員)を励ます会、全建総連・国公総連・社青同の各大会、党私鉄対策特別委、北上市での時局講演に出向き、また党本部で選挙戦へ向けての党全国ブロック事務局長会議を主宰する。

## 四野党の院内共闘確認 教育改悪・共謀罪など廃案で合意

10月4日(水)、4野党の国対委員長定期協議が再開。社民党の重野国対委員長(衆院議員・大分)が、4つの悪法案(狭い愛国心を注入する教育基本法、憲法改悪のための国民投票法案、防衛庁の「省」昇格、「共謀罪」を定める刑法等改正案)を廃案に追い込むことで4野党が結束するよう確認を求めた。

又市幹事長はこれに先立ち記者会見等で、「安倍内閣がまず取り組むべきは、5年余にわたる小泉政治による格差拡大をどう是正し、米国追随・アジア近隣諸国との関係悪化をどう修復していくかです。だが小泉改革を継続・加速していく、日米(軍事)同盟を強化し双務性を高める、教育再生を図る、そして改憲を政治日程に乗せていくと言う。憲法99条の公務員の憲法尊重・擁護義務をハナから守る意志のない人物」と批判し「総裁選前からの言動と内閣の顔ぶれを見ても、希に見る反動・タカ派内閣」と断じた。

その上で又市幹事長は「わが党は、国民のくらしと平和を破壊する新保守主義に対し、平和・自由・平等・共生の社会民主主義の旗印を鮮明にし、安倍内閣に徹底した論戦を挑みます。同時に、労働運動・市民運動などの院外大衆闘争を喚起し、合わせて野党4党の院内共闘を一層強化し、これら悪法の成立阻止に全力を挙げます。」と決意を述べた。

## 「核実験」で国会決議 又市幹事長「軍事行動は厳に禁じよ」

北朝鮮が地下核実験を行なった(と声明した)ことは日本とアジアの平和を脅かすものであり、衆議院に続き参議院でも11日に全会一致で非難決議を採択した。又市幹事長は「社民党は従来、いかなる国の核実験にも反対し核兵器廃絶を求めてきました。この決議は北朝鮮に6カ国協議への復帰と核兵器の放棄を求め、外交による平和的解決を模索しています。」と強調した。他方この決議には自民党などの主張で国連憲章第7章による措置【※いずれも安保理決議が必要】を含んでいる。社民党は同41条の非軍事的措置に賛成だが、42条の軍事行動(海上封鎖など)には絶対反対する。

又市幹事長は「米軍が臨検や補給などで日本に協力を求めても、憲法上、参加は許されません。北朝鮮の暴挙は安倍政権の日米軍事一体化路線と憲法9条改悪勢力を勢いづけようとしています。相手がどの国であろうが、日本は憲法に則って平和国家として独自の外交的努力が必要です。」と語った。